

# 新総合計画策定プロセスにおける市民参画手法

小田原市企画部企画政策課総合計画班  
TEL 0465-33-1255

# 1. 新総合計画策定における市民参画の考え方

## 新総合計画策定基本方針 「市民参画の基本的な考え方」

新総合計画の策定プロセスでは、過去の実績を踏まえ、市政への市民の関わりを更に一歩進めるべく、50年後、100年後を見据えた地域モデルの構築を念頭に、市民の全面的な参画を仰ぎ、市民と行政のコラボレーションの土台づくりを行うものとする。

この土台づくりは、市民自身が、地域の様々な社会的活動や公共サービスの担い手として力を発揮し、行政は、市民の最良のパートナーとして地域の現場に関わり、それぞれの応分の役割分担で地域運営を行っていく「持続可能な市民自治」の実践を促すものとなる。

### 【想定される市民参画手法】

市民討議会の設置

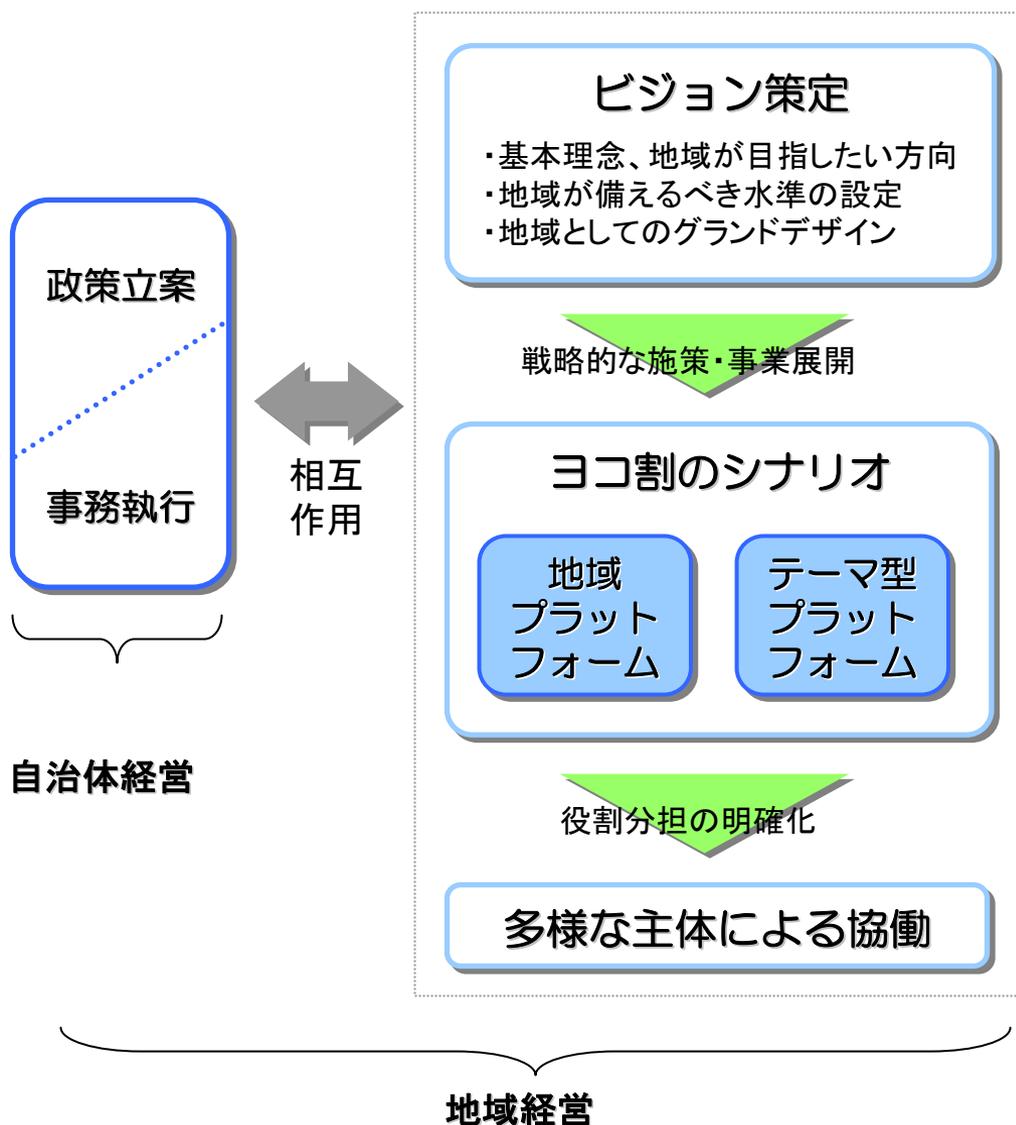
市民意向の把握

市民との対話

意見・提言募集

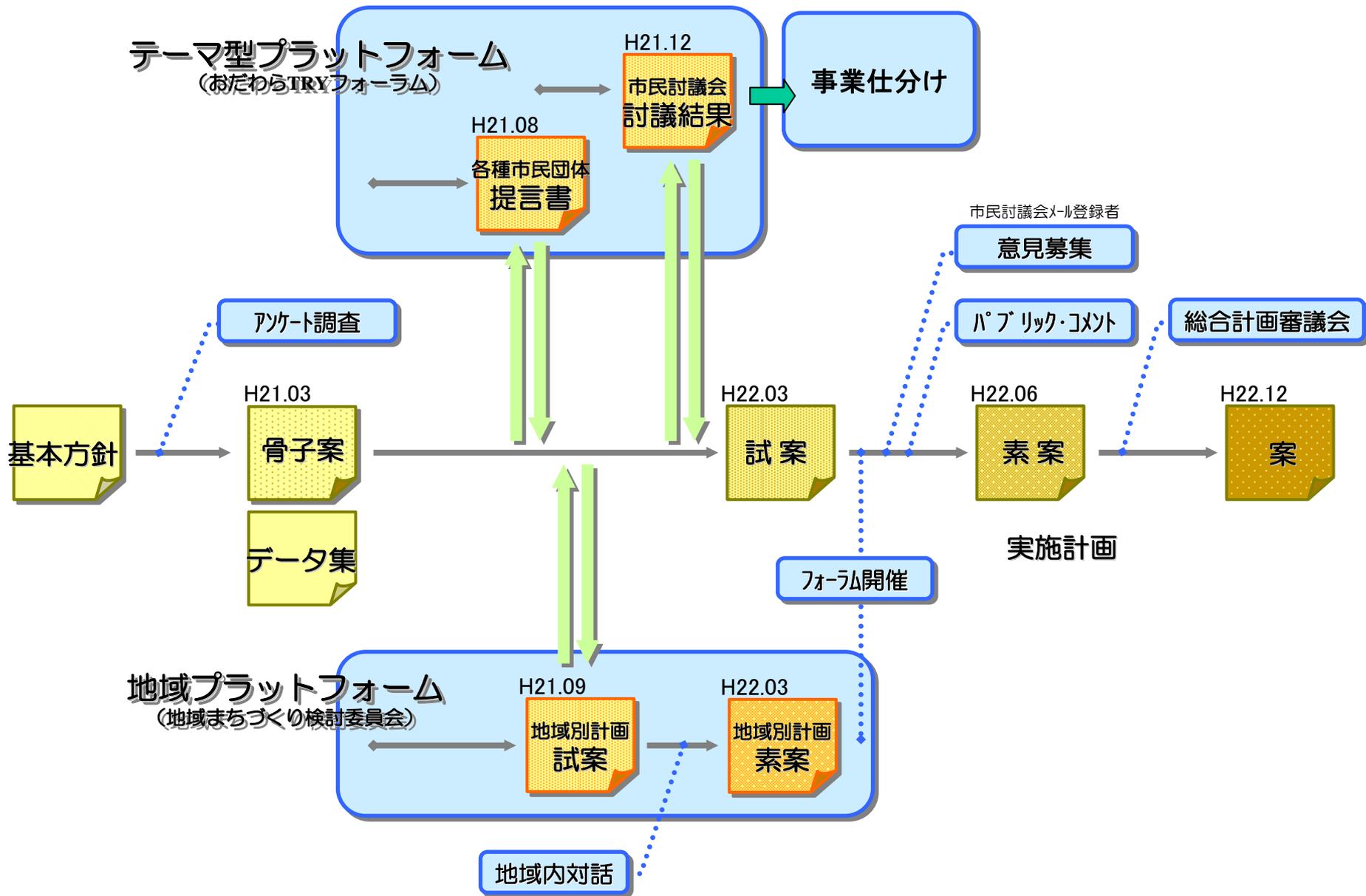
総合計画審議会

## 【地域経営と一体となった自治体行政経営】

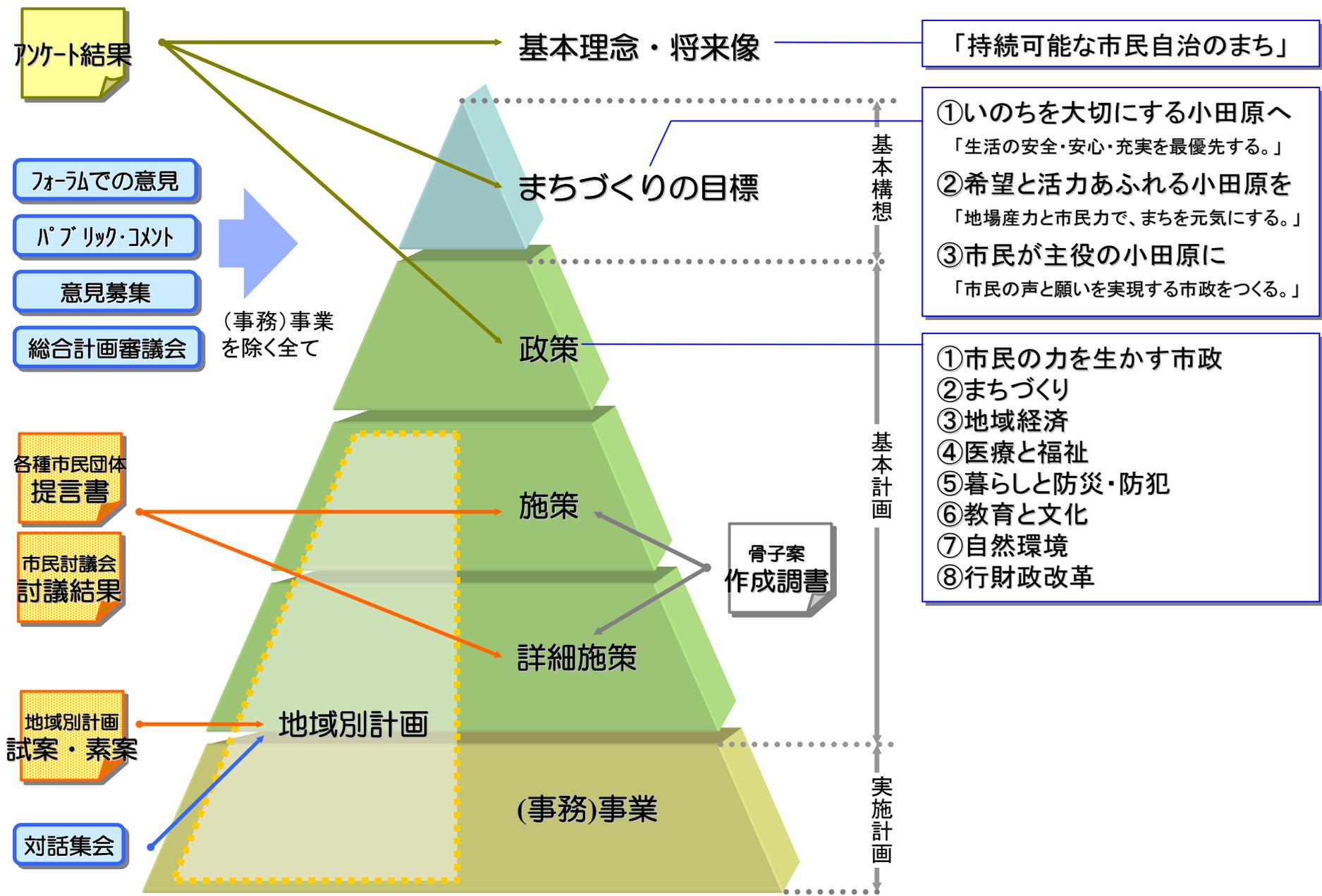


※多様な主体による地域づくり戦略研究会「地域からの日本再生シナリオ(試論)」P42を参考に加筆修正

## 2. 新総合計画策定プロセスにおける市民参画（フロー）

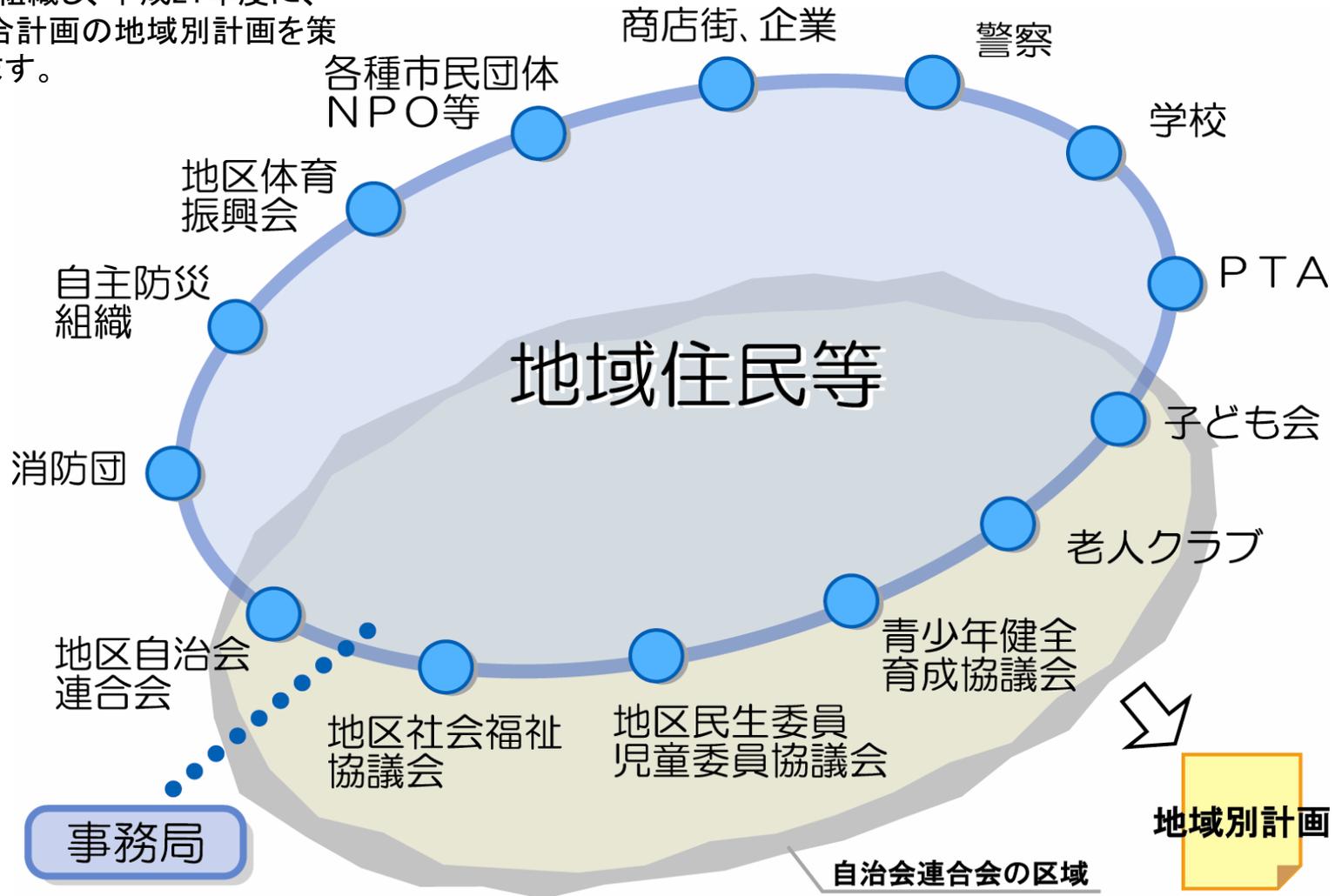


# 3. 新総合計画策定プロセスにおける市民参画（計画への反映）

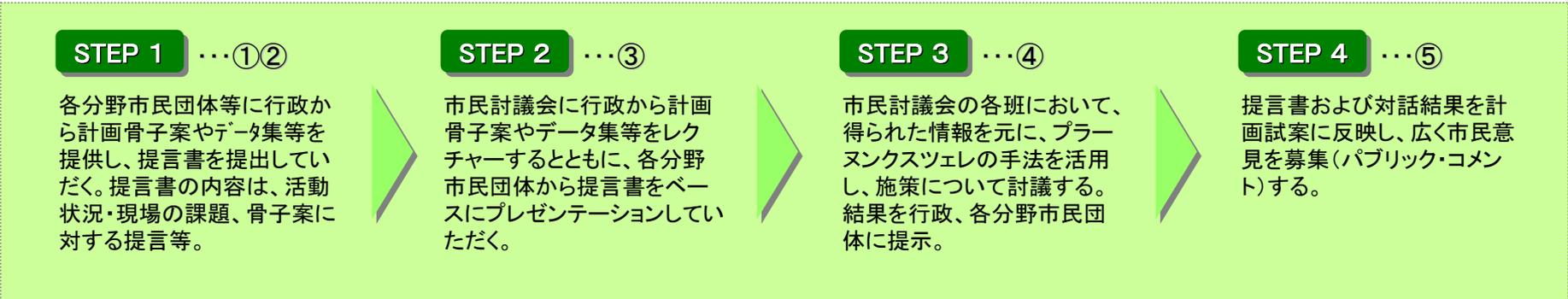
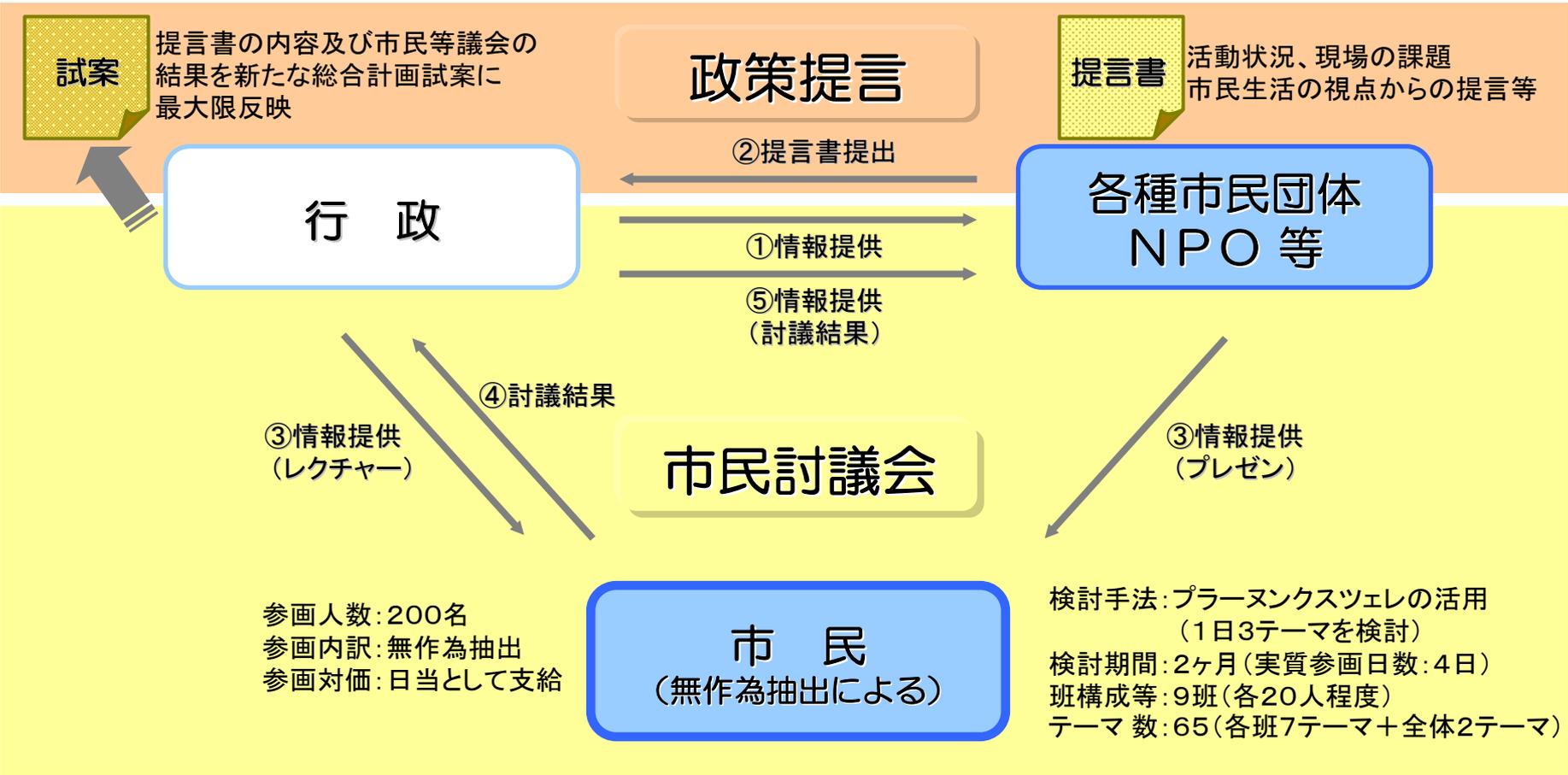


# 地域プラットフォーム（地域まちづくり検討委員会）

自治会連合会の区域（25地区）に、「地域まちづくり検討委員会」を組織し、平成21年度に、新総合計画の地域別計画を策定します。



# 5. テーマ型プラットフォーム（おだわらTRYフォーラム）



# 6.アンケート調査・データ集作成

## アンケート調査の概要

目的	新総合計画へ市民意向を反映するため、市民が抱く「小田原のイメージ」や「小田原の望ましい姿」等について把握し、骨子案に反映する。
方法	<p>サンプル数(目標数:1,000)の確保と世代の偏りを防ぐため、無作為抽出・郵送による方法は取らず、学校・各種団体を対象として配布・回収する。加えて公共施設にもアンケート用紙を置く。</p> <p>【想定対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生・高校生(10代)、</li> <li>・短大・大学生(10~20代)</li> <li>・幼稚園・保育園保護者(20~30代)</li> <li>・小中学校PTA(20~40代)</li> <li>・消防団(30~40代)</li> <li>・市内企業(40~60代)</li> <li>・自治会(50~70代)</li> <li>・老人クラブ(60代~)</li> </ul>
時期	平成20年秋頃(H21.4.1号広報、HPに掲載)
設問	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性別/年齢/居住年(市外居住の有無)</li> <li>○小田原の都市イメージ</li> <li>○10~20年後の小田原の都市像</li> <li>○小田原の魅力・誇れる点</li> <li>○小田原のまちづくりの課題・改善点</li> <li>○地域活動への参加意向/活動領域</li> </ul>

## データ集作成の概要

目的	新総合計画の基礎条件について所管課と連携して整理するとともに、市民参画による計画試案作成のベースデータを、既存の各種統計資料等をもとに整理し、市民に提示する。
概要	<p>【計画の基礎条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口推計…企画</li> <li>・中長期財政見通し…企画、財政</li> <li>・土地利用方針…企画、都市部</li> </ul> <p>【施策立案のデータ集】</p> <p>これまでの計画策定においては、庁内検討用を意図して各種データの整理を行ってきたが、今回は、本格的な市民参画とするため、データ集を市民参画の「インフラ」として捉え、各種データを整理し、庁内、市民が活用する。また、今回は、地域別計画を策定することから、地域毎のデータについても整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種統計資料の整理(体系化・地域別)</li> <li>・施策展開の概要</li> <li>・ベンチマークとして類似都市比較</li> </ul>
時期	平成21年度
備考	<p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三鷹市「三鷹を考える論点データ集」</li> <li>・福井市「比ベジョーズ(自治体ベンチマークシステム)」</li> </ul>

# 【参考資料】 プラークスツェレ

## プラークスツェレとは？

○今までの公募による会議と異なり、無作為抽出により参加者を募ることが最大の特徴。

○他の参加者の意見を十分聞き、お互いを尊重して合意形成が可能となり、利益誘導や専門家の意見に偏った形にはならない。

○サイレントマジョリティーと呼ばれる一般の市民の声なき声を抽出できる方法として有効。

○プラークスツェレ(市民討議会)の参加者が、開催後に地域社会に対する参加意識が高まる点も評価される。

## プラークスツェレ(市民討議会)の流れ

1. 話し合いへの参加者を無作為抽出で選ぶ。
2. 参加者に謝礼を払う。
3. 1グループ5人(通常5グループ25人)に分けて参加者だけで話し合いを行い、全体で投票を行う。(1日3コマ、5日間で15コマ)
4. 各話し合いの前に現状や課題などの情報提供を行う。

## 【対話の流れ】

